

市立幼稚園のあり方の検討について

近年、少子化の進行や家庭の就労状況等の社会情勢の変化により、市立幼稚園の園児数は減少の一途をたどり、一定の集団規模が保てない幼稚園が多数存在しています。

平成 24 年 9 月には「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」を策定し、これまで、日御碕幼稚園、鶉鷺幼稚園及び乙立幼稚園の 3 園が閉園になりました。また、多伎幼稚園及び出東幼稚園については、保育所を運営する法人への譲渡により認定こども園になりました。

一方、園児数確保策として、教育時間以外にも園児を預かる「預かり保育事業」を展開し、各園で一定数の利用がありますが、園児数減少の傾向は変わらない状況にあります。

また、園舎の多くが古く、幼稚園 25 園のうち、築 30 年超が 10 園（40 年超 5 園、50 年超 3 園）となっており、施設の更新も課題となっています。

こうした中、「より効果的で均衡のとれた幼児教育」、「より効率的な幼稚園運営」を行うため、今後の「市立幼稚園のあり方」について、関係職員（幼稚園長、教育委員会、子ども未来部）を構成員とする内部検討会議を立ち上げました。

なお、当会議での検討案を基礎資料として、令和 5 年度には外部も交えた具体の検討を進める予定です。

(参考) 市立幼稚園の施設数及び園児数の推移

年度	H19	H24	H30	R1	R2	R3	R4
施設数 (園)	30	30	27	27	26	26	25
園児数 (人)	2,018	1,589	1,252	1,185	1,099	1,010	924

※園児数は各年度 5 月 1 日時点の人数。(学校基本調査の人数)

※H19 は旧斐川町の施設数 4 園及び園児数 311 人を含む。